



「ぱれっとのビジュアルブック」ついに完成！



ぱれっとのビジュアルブックのタイトルは、「あなたとわたし わたしとあなた-知的障害者からのメッセージ-」に決定しました！

●印刷までの流れ

第1案のたたき台をデザイナーの大久保さんにお渡しし、並行してキャプションを英語に翻訳する仕事は、小学館の廣野さんからのご紹介で、神保町にある株式会社リングア・ギルドさんにお願ひしました。こうして11月下旬、写真や文字の大きさなど、実際の本にほぼ近い形の第2案のたたき台が出来上がってきました。編集会議では、内容や読みやすさ等の最終確認と並行して、写真掲載

許可の本人確認、協力者への記載確認作業が行なわれました。そして印刷へ！

●広報をお願いします！

本ができれば販売です！販売するためにチラシやDMを作る作業も進められました。今月号の「ぱれっとつうしん」には、チラシもDMも同封しています！障害のある人が地域で当たり前に活動していく」というぱれっとの理念を、子どもや障害のある人、今まで障害者に関わる機会がなかった人まで、広く伝えたいと考えています。ぜひ皆さまもご購入いただき、広めていって欲しいと思っています。よろしくお願ひいたします。
えびす・ぱれっとホーム職員 姫崎由美

廣野 篤(小学館・担当編集者)：はじめまして。小学館の廣野です。このたび、ビジュアルブック『あなたとわたし わたしとあなた-知的障害者からのメッセージ-』を出版させていただくことになりました。お話を初めて伺ったのが6月。長いような短いような約半年間でしたが、現在は色校正刷が出ており、本の最終形に近づいてきました。形のない状態から、だんだんと本に仕上がっていく。その過程は、何度経験しても、得も言われぬ楽しさがあります。それも、この本は心震えるほどの仕上がりで、編集者としての幸せを感じています。これも、関わられたみなさまのお力で、感謝のことばもあります。出版不況と言われ、利益や売上が大きな声で語られることが多いのですが、読んだ方の心の中に、なにか良いものが宿る、そんな本を出版していくこともたいせつなことだと思います。この本に携われたことを本当に光栄に感じています。

谷口奈保子(NPO 法人ぱれっと理事長)：2012年5月に理事長を退任するにあたって、これまでの30年の活動を何かの形で残したいと思い始めたのは1年半前のことです。地域に知的障害者の姿が見えないということがきっかけで、彼らを誘って一緒に楽しもうと学生たちに声をかけたのが「ぱれっと」の始まりでした。

そして今、地域で働き、余暇を楽しみながら暮らす知的障害者が少しずつ増えてきたと実感しています。どんな障害があっても、気軽にお隣さんとお付き合いができる社会になるには、もう少し時間がかかるかもしれません。ぱれっとでは、そんな人たちのごく普通の生活を、ビジュアルブックを通して発信しようと考えました。

本作りのプロの方々への支援を得ながら進めてきた1年、ぱれっとの絵本がいよいよできて上がります。ぱれっとの30年の思いが残せることを、私は心から嬉しく思います。

ぱれっとのビジュアルメッセージブック

「あなたとわたし、わたしとあなた」

—知的障害者からのメッセージ—

小学館 HP : http://www.shogakukan.co.jp/books/detail/_isbn_97840972646062012年
1月末発売

★★★ 出版記念パーティ ★★★

日 時

2月5日(日)午後4時～6時

会 費

2,000 円(軽食、本1冊進呈)

場 所

写真展会場にて

午後6時より

スリランカ料理&BEER Palette
にて懇親会(別途3,000 円)

お申込み/お問い合わせ

ぱれっと事務局(03-5766-7302)

パーティ参加は

2月2日までにご連絡ください

★★★★★★ 出版記念写真展 ★★★★★★

本のために撮影した、障害者の日常の姿を
約2,000点にのぼる写真で展示します。

日 時

2012年2月1日(水)～6日(月)

11時～午後7時

(最終日は午後3時まで)

場 所

ギャラリーPOINT

渋谷区恵比寿西1-4-7

(恵比寿駅徒歩3分)*同封のハガキ参照

★★

寺澤太郎(写真家) : 今年の夏は、ぱれっとのみなさんとひと夏を過ごした感じがしています。これまで障がいのある方と接する機会はなかったので、大きなカメラを持って、自分たちの生活の場に入り込んでくる私をどのように感じるのか、撮影が始まるまで不安でした。しかし、みなさんカメラを怖がるどころかとても自然に、また無邪気なままでそこにいてくれました。時々サービスカットも演出してくれるほど、撮られることを楽しんでもらっていることが嬉しい思い出となりました。

土岐小百合(ときたま 言葉のアーティスト) : 「土岐さーん」、恵比寿の町を歩いていると聞き慣れた声がする。Tさんだ。この半年、この本の撮影のために10回以上、ぱれっとのホームやイベントに通った。おかげで、ぱれっとのみんなとすっかり顔なじみに。こうして、町で会うと声をかけてくれる。ちょっと嬉しい。以前の私のように知的障害者の知人がいない人が、この本をきっかけに知的障害者の知り合いを作ってみようかなと思ってくれたら、幸せだ。そのためにも、どんどん売ろぞ!ご協力よろしく!

前田薫(NPO 法人ぱれっと理事) : 「本はこうやって作るんだ!」という全く知らない世界を見せてもらいながら、約1年があつという間に過ぎました。素晴らしいプロフェッショナルが、会議での「あれも!これも!」を、想像を超える形に整理して見せてくださるので、驚きと感動の連続でした。ぱれっとの思いができるだけ多くの人たちにつながってほしい、特に将来を担う小学生や中学生たちにこの本を見てもらって色々と話し合いをしてほしいと思います。それには「小学館発行」が力強い味方です。

伊藤遥(えびす・ぱれっとホーム職員) : 障害のある人たちを身近に感じてほしいという思いから、話し合いを重ねてきて、多くの協力者のもとビジュアルブックが完成し、喜びや達成感があります。また、プロの方々の専門的知識や技術を垣間見ることができて新鮮でした。障害のある人たちが当たり前前に地域で暮らしている様子や、写真やメッセージにも共感できる心が温かくなる本です。たくさんの人に読んでいただけるよう思いを伝えていきたいです。